

※本メルマガ「きたやま通信」の配信を個人で希望される方は、こちらのQRコード(もしくはURL)から、メールを受信できるアドレスの登録をお願いします。 <https://forms.gle/UGNXEb9q5ysYwGBG8>
本メルマガを多くのお知り合いの方々にご紹介いただければ幸いです。



■ 1 研修室点描

- ◇1 高等学校における特別支援教育の理解推進研修講座
- ◇2 いじめ対応研修講座
- ◇3 読み書き困難のある児童生徒への指導法研修講座
- ◇4 研修支援訪問(教育相談・生徒支援) 利根町教育委員会
- ◇5 令和5年度全国教育研究所連盟研究協議会(宮城大会)

■ 2 実践家の魅力に迫る! ~アクティブラーナーにインタビュー

■ 3 参考資料等のご紹介

- ▼喫緊の課題!不登校児童生徒への支援充実を!!(教育相談課)
- ▼働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して(情報教育課)

■ 4 事業案内

- ▼NITS・茨城県教育研修センターコラボ研修受講者募集のお知らせ(教職教育課)

■ 5 推挽録 (編集に寄せて)

■ 1 研修室点描

◇1 高等学校における特別支援教育の理解推進研修講座

【期日】9月29日(金)

【人数】95名

【内容】

〈講義・演習〉「高等学校における合理的配慮」 大阪大谷大学 小田 浩伸 教授

OMIP!(most impressive phrases)

「生徒が自己肯定感を下げないようにするためには、教師自身の自己肯定感を下げないことが大切」

〈講義・演習〉「当事者会としての思い」 当事者会イトコサガシ 冠地 情 代表

〈研究協議〉「特別な教育的支援を必要とする生徒への支援」 特別支援教育課職員

【受講者の声】

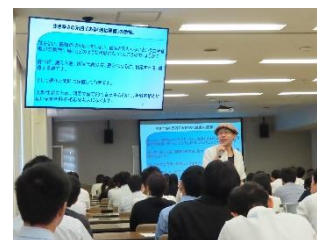
○まず今日の内容を、全職員に共有したいと思う。やはり、特別支援を行うためには周りの理解と連携が必要だと考える。本校は配慮を必要としている生徒が多いため、チーム学校として取り組んでいきたい。

○小田先生の講義から支援を必要とする生徒の立場、目線になって一度考えることが大切な事だと改めて感じた。表面に見えていることだけで判断せず、その行動の背景をしっかりと捉えられるように今後も生徒理解に努めていきたい。

○冠地さんの講義が印象的だった。生徒には、生きづらい人生を送らないよう、思春期のうちに「痛み分け」ができる機会を設けていき、多様な価値観と触れ合う機会を学校生活で積ませてあげたいと感じた。

【特別支援教育課より】

○研究協議では、事例の生徒に対する、具体的な合理的配慮の提供について積極的に協議するなど、午前中の講義・演習の内容を生かした充実した場となりました。研修した内容を持ち帰り、校内で共有しながら、適切な支援に生かしていただけることを期待しています。



◇2 いじめ対応研修講座

【期日】A班 10月18日(水)・B班 11月2日(木)

【人数】A班 240 人・B班 199 人(小 248、中 105、義務 18、県立中 5、中等5、高 48、特支 10 人)

【内容】

〈講義・演習〉「いじめ問題の現状と課題」東京理科大学 中村 豊 教授

OMIP! (most impressive phrases)

「子供の大丈夫は大丈夫でない、と思え」

「いじめを根絶することは困難であるが、いじめを止めることはできる」(いじめ研究の第一人者 森田洋司氏の言葉)

〈講義・演習〉「いじめの理解」「いじめの組織的な対応」教育相談課職員、教育事務所職員

【参加者の声】

○中村豊先生の講義の中で、「AさんがBさんから暴力行為を受け、学校はけんかとして処理した」や「CさんがDさんとEさんから悪口を言われたことについて、担任が一人で対応した」というような事例から学ぶ内容がたいへん分かりやすかった。「適切な対応で、いじめは止めることができる」という言葉を、今後も大切にしていきたい。(小学校教諭)

【教育相談課より】

「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によると、全国のいじめ認知数が過去最多となりました。「いじめを見逃さない」という取組が進み、「いじめ認知漏れゼロ」に向けて各学校で丁寧に対応していただいている結果だと考えます。一方で、いじめ重大事態のうち約4割はいじめ未認知だったというショッキングな事実が。重大事態に至る原因としては、担任が一人で抱え込んだり初期対応が不十分だったり等のケースが挙げられています。起こってしまったいじめや重大事態の認知・報告を校内や設置者に可及的速やかに行うことを大前提とし、その上で、被害児童生徒とその保護者の心情に寄り添った関わりを優先させていくことが重要であることを、講座で改めて共有できました。それらの事後対応をしっかりとコントロールした上ではじめて、未然防止を念頭においた学校風土づくりが求められていくものと考えます。

◇3 読み書き困難のある児童生徒への指導法研修講座

【期日】10月24日(火)

【人数】120名(小92 中25 特3)

【内容】

〈講義・演習〉「読み書き困難者ある児童生徒への指導」筑波大学 三盃 亜美助教

OMIP! (most impressive phrases)

「読み書き指導の前に、子供のできるようになりたいという気持ちを大切に」

「練習の仕方は、子供と共通認識の上で」(それにより子供は能動的に)

〈実践発表〉「読み書き困難のある児童生徒への指導の実際」

桜川市岩瀬東中学校 磯 真紀子 教諭

守谷市立守谷小学校 田淵 恵美子 教諭

〈講義・演習・研究協議〉「読み書き困難者ある児童生徒への指導の実際」特別支援教育課職員

【受講者の声】

○読み書き困難のある児童の背景を考え、適切な指導法を考えることで、児童が「学ぶことは楽しい」と感じることができるようになりたい。本日学んだことを学年や学校内で共通理解して、チームで支援していきたい。(小学校教諭)

○通常の学級でも活用できる指導法を教えていただいたので、早速明日からの指導に取り入れていきたい。(中学校教諭)

【特別支援教育課より】

○講義・演習をとおして、仮想事例を基に、読み書き困難の背景や支援方法を考え、どのような支援や合理的配慮が必要かについて協議しました。どのグループも活発に意見交換が行われていました。欲が高められたようでした。児童生徒の困り感を少しでも減らせるよう、本日の研修で得られたことを実践に結びつけていただければ幸いです。

◇4 研修支援訪問(教育相談・生徒支援) 利根町教育委員会

【期日】10月23日(月)

【人数】8人(小学校3人、中学校4人、指導湯時1人)

【内容】不登校児童生徒の支援について ~解決志向のチーム支援会議の演習を通して~



【参加者の声】

○ホワイトボードを用いながらワークを通してわかりやすく学ぶことができた。また、解決志向のチーム支援会議演習では、台本の流れに沿うことで円滑で生産性のある会議にすることができた。学校に持ち帰り、実践してみたい。(小学校教諭)

【教育相談課より】

事例報告者からは「まだできることがあると分かった」、参加者からは「原因ばかりに目が向きがちだったが、リソースにアプローチしていくことが大切だと分かった」「みんなで考えたほうが多くの意見が出て解決に近づくことが分かった」等の感想が聞かれ、解決志向アプローチやチーム支援の有効性に気づいていただけたようでした。研修終了後には、次回の支援会議の進め方や会議の雰囲気づくりについて等の質問も続出し、各学校での活用に期待がもてました。

◇5 令和5年度全国教育研究所連盟研究協議会(宮城大会)

【期日】10月26日(木)・27日(金)

【場所】宮城県仙台市

【参加】全国の教育研究所連盟から 約300名

【内容】

〈基調講演〉「新たな教師の学びの姿の実現を支える教育センターの在り方」 兵庫教育大学 加治佐 哲也 学長

1 学校教育の新しい姿

・子供が主体的に取り組む ・インクルーシブ教育の推進

2 新しい教師像と校長像

・変化を前向きに受けとめられる(教師像) ・支援する伴走者(教師像) ・マネジメント能力(校長像)
・変化対応力と変化の意味を教職員に理解させる力(校長像)

3 教師の学びの在り方

・研修観の転換 ・研修リーダーの育成

4 新たな教師の学びの姿、新しい研修制度

・研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドライン ・教師の主体的・自立的な学び
・校長との対話をし、意欲・主体性を基本に

5 新しい教師の学びの姿と教育センターの今後の在り方

・重点を探求的な学びへ ・ビッグデータを活用した研修の分析と改善

〈分科会発表〉茨城県・宮城県・岩手県

〈発表者〉本県教育研修センター 教科教育課指導主事 西條博崇・星野優子

テーマ：「IBARAKIの挑戦! ～「探究」と「創造」でつくり上げた STEAM 教育研修講座の広がり～」

〈分科会〉 A:教師に求められる資質能力向上を図る研修・研究の在り方

B:時代のニーズや環境の変化に対応する学校と教職員への支援の在り方

【発表者より】(西條・星野)

○全国大会にて茨城県の STEAM 教育研修について発表を行いました(B班)。3年前から、未来の子供たちのため、学校現場の先生方のために一から構築し、継続的に挑戦してきたこの講座を、全国の皆様に向けて紹介することができました。茨城県内での実践者の先生方、そして関わっていただいた全ての関係者の方々へ深く感謝いたします。

挑戦とは、①STEAM 教育を探究すること

②受講者と共に創り上げる講座にすること

③県内に波のように STEAM 教育の良さを伝えること

茨城県教育研修センターとして、これからも挑戦を続けて参ります。



■2 実践家の魅力に迫る! ～アクティブラーナーにインタビュー

◇1 潮来高校 小田原 知子教諭 (R5 中堅教諭等〔後期〕資質向上研修講座(高校)受講)

小田原先生は、教務主任として学校運営を支えています。若手の多い職場で、アドバイスを求められることも多いそうです。

そんな先生を支えているのは、これまで積み上げてきた経験と積極的に受けてきた教育相談の研修だそうです。

○研修で良いヒントが得られたらそれを生かすようにしていますが、「生徒や保護者とのかわりに生かすカウンセリング」の研修で学んだ演習などは、自分の学校でもぜひ実践したいと思います。生徒の顔がパッと明るくなるのが想像できます！

○生徒理解を深めるために校内研修を企画し、ワンチームで生徒とともに成長できるよう努力を続けたいです。

※小田原先生のお話を窺っていると、これまでのご経験と研修で得た知見を活かして日々の公務に取り組みようとする意欲を強く感じます。どの年代の先生も活躍できる、生徒の笑顔のために協働できる、そんな職員集団を目指して、これからも笑顔で取り組まれていくことを期待しています。

◇2 下妻第二高校 岡本 大成 教諭 (R5 初任者研修講座(英語)受講)

岡本先生は、講座での学びを即実践に移して授業改善を進めることにより、生徒が意欲的に学ぶ授業づくりに取り組んでいます。

○学校や生徒の実態に合わせた言語活動の進め方について講座で学びました。受講後、リスニングを用いた授業の導入についての課題を担当指導主事に質問し、助言をもとに実践しました。活動のはじめに目的・場面・状況を明示し、中間指導を入れることで、授業の流れが格段に良くなりました。

○授業参観で学んだマッピングを用いたリテリング活動を、翌日の授業で実践しました。活動の様子を撮影した動画をその日のうちに担当指導主事と共有し、助言を受けました。今後の実践では、生徒の振り返り等を基にしたより適切な指示や発問の仕方、非言語コミュニケーションの活用についても研究していきたいと考えています。

※岡本先生自身が英語の授業を楽しみ、生徒をたくさんほめることで、生徒が意欲的に学ぶ授業の雰囲気づくりを心掛けていらっしゃるそうです。授業を拝見すると「生徒にとって、よりよい授業づくりをしたい」という思いにあふれ、それが生徒を主体とする言語活動の様子にも表れていました。今後も自身の研鑽を重ねるとともに、校内にも学びの輪を広げていただけることを期待しています。

■3 参考資料等のご紹介

▼喫緊の課題!不登校児童生徒への支援充実を!! (教育相談課)

10月4日、文科省から【令和4年度令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果】が公表されました。 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm

気になるのは、不登校児童生徒のうち38.2%の児童生徒が、学校内外の機関等で何ら相談・指導等を受けていないということです。次の通知などを学校全体で確認し、支援の具体に繋げていただければと思います。

義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律の公布について(通知):文部科学省
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1380952.htm

義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針:文部科学省
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2017/04/17/1384371_1.pdf

▼働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して(情報教育課)

文部科学省より「働き方改革の実現・教育活動の高度化におけた次世代校務DX」に関する資料やウェビナー動画が公開されました。動画では、

- 1 校務DXの政策動向
- 2 次世代の校務DXの方向性・今後取り組むべき施策
- 3 先進事例の紹介
- 4 学校における生成AIの活用について 等が紹介されています。

ご関心のある方はぜひご覧ください。 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/175/mext_01385.html

■4 事業案内

▼NITS・茨城県教育研修センターコラボ研修受講者募集のお知らせ
スクールリーダーを育てるハイブリッド型 Online Learning (オンライン・ラーニング)
～学校の未来を拓く新しい学びとマネジメントについて考える～

第2期第5回講座の聴講者を募集します



1 講座概要

〈講座〉「小学校からのキャリア教育 ～学級活動(3)を要として～」

〈日時〉令和6年1月18日(木)13:00～15:00

〈講師〉藤田 晃之 筑波大学教授

〈定員〉200名

2 申込み

右のQRコードから申込み用フォームにアクセスし連絡用のメールアドレスを登録してください。

締切りは令和6年1月10日(水)とします。 <https://forms.gle/K9i5ZFygu2mrW7RDA>

登録されたメールアドレス宛に当日のオンラインアクセス情報等を記載した事務連絡を送付します。これをもって、参加決定通知に代えさせていただきます。

なお、茨城県内の学校教職員等は、事前に管理職の承諾を得てください。

また、メールアドレス登録時に誤りがあると、連絡が取れないことになります。ご注意ください。

3 その他

オンライン研修の録画・録音等の行為は禁止します。

お問い合わせ:茨城県教育研修センター 教職教育課 電話:0296-78-3212



【教職員支援機構とは】

独立行政法人教職員支援機構は、教職員に対する総合的支援を行う全国拠点として、国の教育政策上必要とする研修の効果的な実施や調査研究等を通じ、教職員の資質・能力の向上に寄与する組織です。

英語表記である「National Institute for School Teachers and Staff Development」から「N、I、T、S」の頭文字を取って、「NITS(ニッツ)」を略称としています。

【NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業とは】

教職員支援機構(NITS)が、「学び続ける教員像」の具現化に資するため、各地域における現職教員の研修の高度化・体系化を実現するための支援をするものとし、各教職大学院等が実施する研修、セミナー、ワークショップ等の開催にあたり所定の補助を行う事業です。 <https://www.nits.go.jp/service/collabo/>

■5 推挽録 (編集に寄せて) (教育相談課・主査・廣瀬 久美子)

▽昨今、映画やドラマを早送りで観ることが珍しくなくなった。話題にはついていきたい。でも観たい情報が多すぎる。とにかく時間がない。それを倍速視聴という「時短」が解決する。社会全体に余裕がなくなっているということなのだろうか。

▽倍速視聴は時代の流れなので否定するつもりはないが、「時短」「効率」が優先されるあまり、表情や会話の間など微妙なニュアンスを感じ取る想像力が奪われてしまうのでは、とこっそり危惧している。

▽教育相談課には、教師が児童生徒や保護者と信頼関係を築くための講座がある。そこでは会話上の言葉だけでなく、うなずきや声のトーン、スピード、体の向き等の非言語的表現も大切だと伝えている。「沈黙」にも本音は隠れている。

▽現代の社会は、「先を急ぐ」意識になりがちである。だからこそ、ちょっと立ち止まって相手の言葉を待ったり、思いを想像したりする「間」が必要ではないかと思う。日々時間に追われる先生方にはなかなか余裕がなくて難しいかもしれないが、ぜひ心に留めておいてほしい、そう願う今日この頃である。